

県立歴史館(千曲市)で、県宝への指定が予定されている「小田切家高遠城」ノ丸廐稲荷本殿・上家及び奉納品類」の一部が展示されている企画展「最後の藩主が残したもの」が開かれていく。廃藩置県の際に最後の高遠藩主内藤

頼直が家臣に下賜するなどした同藩ゆかりの品を紹介。150年以上にわたって人々が残してきた思いを伝えている。26日まで。今企画展で展示している奉納品類は、いずれも宮田村指定有形文化財にも指定されている神社幕や獅子頭、洋太鼓など9点。

貴重「高遠藩の遺産」

神社幕は1
838(弘
化5)年に

住民から寄進されたもので、現在も神事の際に使用されているという。

洋太鼓は厩付近にあった西洋稽古場で実際に使用されていたとみられ、奉納品とともに伝来したと推定されている。上伊那郷土研究室の塚田博之さんによると「幕末に作られた洋太鼓はわずかしが残されており、当時の様子を伝える貴重な資料」だという。

県立歴史館で企画展

県宝指定予定の奉納品類

開館時間は午前9時

〜午後4時(入館は同

3時30分まで)。20、24

日休館。観覧料(企画

展のみ)は一般300

円、大学生150円、

高校生以下無料。問い

合わせは同館(電話0

26・274・200

0)へ。(林駿汰)



「小田切家高遠城」ノ丸廐稲荷本殿・上家及び奉納品類」の一部が展示されている企画展